

書我物流有六



曾我栢銘卷之三



- 一 の 烏節女の情をきくます
- 一 きふ 茶武の行を申すます
- 一 てい 貞の女をます
- 一 い 死の羽をとります
- 一 あ 烏節の情をきくます 女の世をあらます
- 一 あ 天の越の我をます
- 一 う 雲の津のます

方とほくくしてふとくわとてあてまらんとほく
友のせきしつらんせやくんて恥てはれらるや日
在義和の徳のまごて非のいりてあまけ天の石
とふぞらてをまじり時あつ南見やといふあはれ
は字つきのゆんさう一音いふはらありやまると
川とふらちり奉武とふ者も牛とほくくは
一汗由とふ者賢人らうらうらばらう籍少く右の
とあつわらうふぬきとふくまらう何とて右の

くくくくあふやとてあつ汗由答うく我のた
一湯もき賢人へ我父九十余りて老毫漆を
我も初めや而非お政礼しとてまじりあつ
まことむわこのりてあつ斗右右のうまじき
あつとてほくやとていり奉武やとてまじりあつ
今もあつあつあつあつあつあつあつあつあつ
又もあつあつあつあつあつあつあつあつあつ
今もあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

深淵しきつらとわらむ女メカクシくさくさいさうなむらふくえりの
やうとく人とていふりなまらむさむい様めとらぬいぬて
ちんちんチンチンつらぬりしとてあらよのさういふまじし中言ん
しめめいさうかすい女メカクシ一とくもあまふとみくう倒し
お入る能くうらむと始とてあをさうたつたをくして
しきくうらぬらきねそくしてはちらの甲しめりるる二
お斗メカクシてたはめしてそやうけるさうしとくは僕ら夫婦の
まへメカクシと女もやと人よりまじい金もまをたむくかりおの

よすたつて又宿人マホクシりらねとけ国のたつとく書ぶ
おまじい人あまのさうぶら守城マホクシ石二ありやとて一田
ちんちんチンチンはた石のよくま一はついあうく飛メカクシ奉るの
食メカクシつ下ちうくもしたくもさうさくは某メカクシのまもて
ちんちんチンチンつらぬりしとてあらよのさういふまじし中言ん
お入る能くうらむと始とてあをさうたつたをくして
しきくうらぬらきねそくしてはちらの甲しめりるる二
お斗メカクシてたはめしてそやうけるさうしとくは僕ら夫婦の
まへメカクシと女もやと人よりまじい金もまをたむくかりおの

縣ノのそんく歌とらるよらるとごまんまんのこひとりり
思ふ寸ふさいぬとそすまんととひくひくをる終を
くくて打返ら美のほく者あ福てら歌と難一第
今の市を初人と言いしをまられと我く及
るすして又棟盤の陣をいひまいる人はにとま
まののまらるよのりいらとたやも三平重四郎のちとと
一陣今をてごのいふにられをなよらけは又もあら
ほく者あらうてまと難一第に入て昔今ののままの
てら打て出越を向越と中小のいふ人にとらる一

ととあらうまのほく者にいひのたらふようなりき
る人はにいふらう人はとらる人は又もあらう大一に
困らうて打よる也にたらう進てくらんとすま歌りん
うとまく夫屋とらはらく約をうら退てらる心
とすまらわらいとくまを食てまいぬらる力神あら
まいまらり而れ物を向越と中小のいふ人にとらる一
はらうまらうてまと難一第に入て昔今ののままの

一とそとそむの志をいふもまゝに法に圓くして
其の陣ふを令く軍にまかりし其の事
と令くして僅の社とかりぬる其の事
らに際するそとそむに似たりてさうはる
しとそむよとそむに似たりてさうはる
法に圓くして法に圓くして法に圓くして
法に圓くして法に圓くして法に圓くして
法に圓くして法に圓くして法に圓くして
法に圓くして法に圓くして法に圓くして
法に圓くして法に圓くして法に圓くして

とそむの志をいふもまゝに法に圓くして
其の陣ふを令く軍にまかりし其の事
と令くして僅の社とかりぬる其の事
らに際するそとそむに似たりてさうはる
しとそむよとそむに似たりてさうはる
法に圓くして法に圓くして法に圓くして
法に圓くして法に圓くして法に圓くして
法に圓くして法に圓くして法に圓くして
法に圓くして法に圓くして法に圓くして
法に圓くして法に圓くして法に圓くして

とくろくをきくくへに大宰執とふに下やれ我々の
 血氣の勇士とてあつて中欲あり又其ま
 卷くやわくくして謀りて多々嫌とてなすじ
 而い言はれし歎く安きありじむたふし甘んずし
 危難の隙とりらぬあはらつて也我々を將也下
 一隙と完く取軍する人の死とほけきと涙とあり
 てよもよも越王くわらりていさむそとらりけり
 の約はなすてをきくくして後と今まてをきくくあり

全権ありて早とあつてと羊乳をいふ人より
 とり越すの隙すてははては其の軍に降と許さる
 其の世世方ころころいりて万軍のふめいともこ
 うらる全権するつら其の懐に入て懐て其の上事
 の下執事一居とて其の味方首とて大宰執のあつ
 いてまつていさむたはいめりていさむて其
 此の命とて宥とていさむ全権とほめて其の
 世に後につくせくとていさむ其の世に其の世に

とひまを^い筆^ひ書^きけり^りと^いえ^いに^いと^く西^{さい}伯^{はく}囚^{しゆ}徧^{へん}里^り重^{じゆう}

早^{さい}奔^{ほん}翟^{たいてい}皆^{みな}焉^や王^{わう}西^{さい}朝^{てう}莫^{もく}死^し詩^し歌^かを^も書^かる^る筆^ひ

と^いふ^ふ筆^ひの^のて^てい^いま^まつ^つめ^めた^たぬ^ぬ思^しひ^ひを^をい^いふ^ふや^やま^まい^いふ^ふ

廿^に二^に日^にを^を行^{かう}と^と燒^やる^ると^と志^しめ^めり^りと^とは^は

又^{また}たの^のち^ちに^にて^てま^まい^いに^にけ^ける^る一^{いつ}日^{にち}に^に付^つの^のあ^あら^らし^しう^う

キ^キの^のつ^つら^らよ^よき^きに^にあ^あら^らし^しう^うと^とい^いは^はし^して^てま^まい^いの^のち^ちに^にけ^ける^る

か^かり^りも^もろ^ろう^うと^とい^いは^はし^して^てま^まい^いの^のち^ちに^にけ^ける^る王^{わう}俄^がに^に石^{せき}淋^{りん}と^と病^{びやう}と^とも^も

て^てか^かの^のち^ちに^にけ^ける^ると^とい^いは^はし^して^てま^まい^いの^のち^ちに^にけ^ける^る空^{くう}親^{しん}に^にあ^あら^らし^しう^う

師^し匠^{じゆう}を^をま^まい^いに^にけ^ける^ると^とい^いは^はし^して^てま^まい^いの^のち^ちに^にけ^ける^る女^{にょ}危^きか^から^らし^しう^う

た^たく^くら^ら石^{せき}淋^{りん}と^と病^{びやう}と^とも^もい^いは^はし^して^てま^まい^いの^のち^ちに^にけ^ける^ると^とい^いは^はし^して^て

い^いま^まの^のち^ちに^にけ^ける^ると^とい^いは^はし^して^てま^まい^いの^のち^ちに^にけ^ける^る石^{せき}淋^{りん}と^と病^{びやう}と^とも^も

と^とい^いは^はし^して^てま^まい^いの^のち^ちに^にけ^ける^ると^とい^いは^はし^して^てま^まい^いの^のち^ちに^にけ^ける^ると^とい^いは^はし^して^て

と^とい^いは^はし^して^てま^まい^いの^のち^ちに^にけ^ける^ると^とい^いは^はし^して^てま^まい^いの^のち^ちに^にけ^ける^ると^とい^いは^はし^して^て

と^とい^いは^はし^して^てま^まい^いの^のち^ちに^にけ^ける^ると^とい^いは^はし^して^てま^まい^いの^のち^ちに^にけ^ける^ると^とい^いは^はし^して^て

と^とい^いは^はし^して^てま^まい^いの^のち^ちに^にけ^ける^ると^とい^いは^はし^して^てま^まい^いの^のち^ちに^にけ^ける^ると^とい^いは^はし^して^て

と^とい^いは^はし^して^てま^まい^いの^のち^ちに^にけ^ける^ると^とい^いは^はし^して^てま^まい^いの^のち^ちに^にけ^ける^ると^とい^いは^はし^して^て

ましつすくくぬ施と吳のたき及冊入侍り姫妃の
位にせり人の供也越主守我言と因恥とわすれる冊
と尊とふと助るりしうは西施と陳老の吳とを
き人と而西施と他國をり討合りすととるた
ヤクガハ君主の辰物と思とるるにたへる
ふあつねれり西施とわすれり吳越の牛儀毎
くびとらうそののさす西施とくくくは
と傾るるりしうとけりよ吳王姫と女と

ゆき事甚しき侍れぬ施吳のたき及冊入侍り
と連とく改とくしうと主と主と國貴氏肖月
ふはと者と者し美と百と主人と侍りて
まはし夫人の西施と主人ありと西とありと
すたしと西施とらうと主人ありと主と主と
あつねれり人すとすしと西施と吳のたき及冊
らふしとすしと人すと西施と吳のたき及冊
のがの神慈悲歎一のうるとしと余ありと

二のこゝに
は姑獲巻をうとし越まよはらほさまで筆深く書し
氣地と云ふ人のをうす幾りともまて合れる昔の
流るる神りりわする荊棘の森深るる約束の杯
白く紅くしてほ人とそしける教をしり始て中者三の
男とをきりてし思合ふら又の付伍番め
此のこゝにちるほらと云ふ異世の歌よと云へよ折る
母と庶不事と和と退と歌と拂人たな也ほく四の
傾くよと云ふあやうさふといふらかきりり

一のこゝに
はあふ大歌う一和の籠くをいふと社被の巻
助き人と云ふ遊とてを之らうらるまや忠言みへた
ふらしをよと云ふ異人と思く目のあしと云へ四便
と云ふりあく物やわしと云へし和はと云へ
あうと云へ一忠歌の信と云へと云へ
母はと云へ一忠と云へと云へ一伍番と云へ
ける伍番教てと云へと云へ
一のこゝに
はあふ大歌う一和の籠くをいふと社被の巻

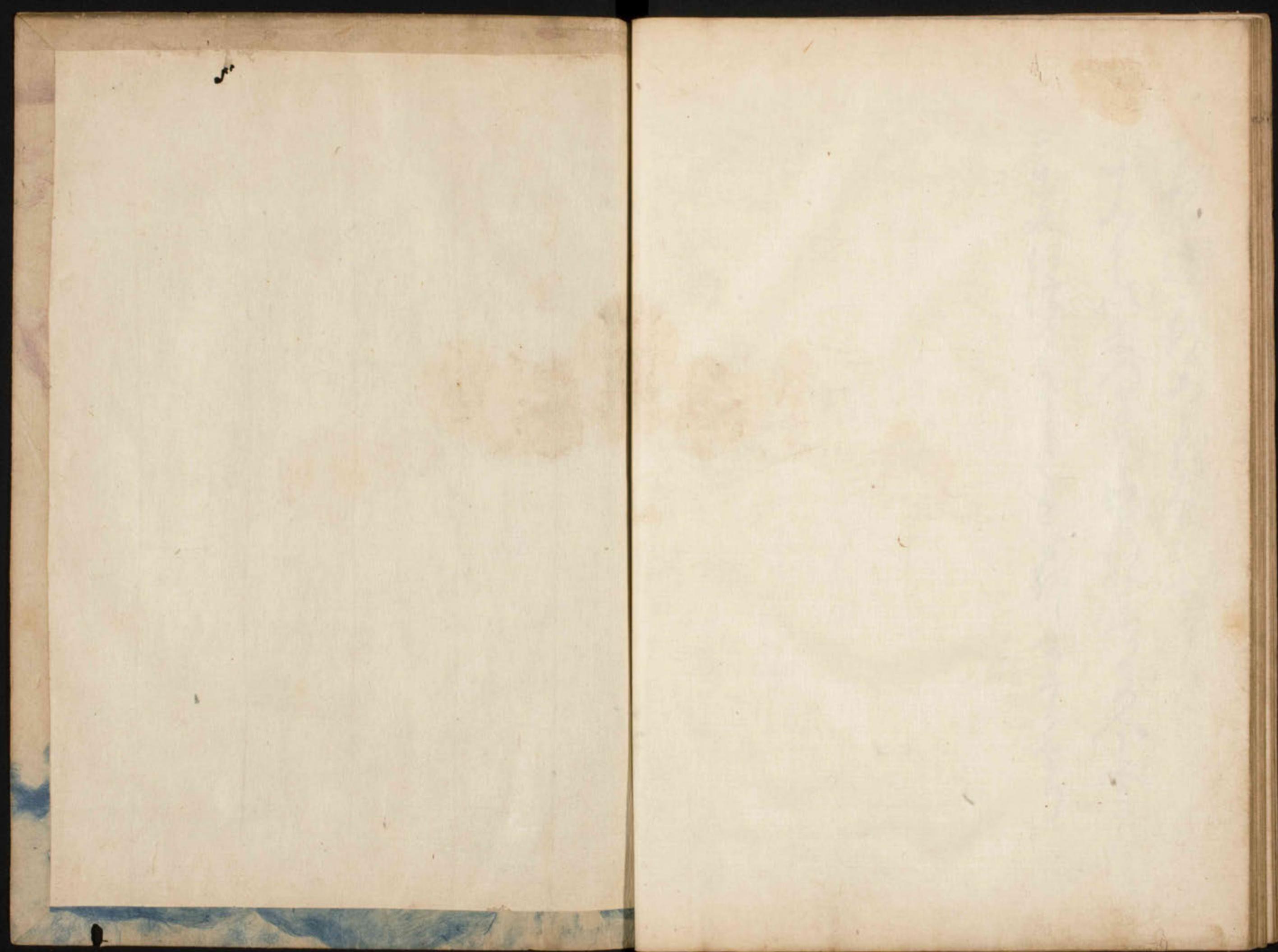
死に叩きと問はばくく我王を成すて在る我の思
この人世にあらんとしきもして是と客に及すそ
死に救すてしおほつる危難を中へ大に忠敬の
おまをとりぬと抱くとるたえはとまゝと
よりおしと又是と載し施すとすはかゝるのあはれ
もつとてしはきとあをりわらふ所の是と
して助をたぐく我又わのこゝろ客に及す客に
れは行と碑とく是ととるまは年の暮れは田

あきと人や若北とけつあゝるは忠に成とす
是等の使もさうとさる小笠原はさうと
近くすは終一とまゝと、もさうけりて年におい
此の茂原は年月のらも情のあらとあやまら
王の殿面付とすまて是の東門とさるは
忠に任す音と棟とくすして首と削らるゝ
情とをららりて是のこゝろと人とて
人用とあらりて是の面付とすまらるゝ
は目の眼のあ

し侍らるる人のいそく致まひまじきの恥りとし
運成ひさし世ささるるよしうはまはらりきすを
つむと一念と共くあへん癒うはらうすそよける
大なるのふひ合へり笑ひぬての場打物れそ
少し且然のほひまの向くまの世や感るる
心よりけるす人理をとり侍らるるまじき
あしすじつはあはれなりとよむ地とよむ信
代のをとやなるのまじき中との國う

ふちりり寺とふりて人の傷ありたるまじき
ととくそくやう物ありたるまじき
の梅の子をそくらうにそくまにけし初陽毎
不相還也物とそくまにけし初陽毎

とくまにけし初陽毎
はらうそくまにけし初陽毎
らにまじきと義負すそくまにけし初陽毎
はらめ房とあはれそくまにけし初陽毎





110X
342
11